

外務省補助金—カンボジアとタイ 2カ国の事業に

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) は 2011 年度のカンボジアの母子保健改善事業と 2010 年 11 月から 3 年間実施するタイ・子宮頸がん・乳がん予防



在カンボジア日本大使館での署名式

教育事業について申請していた外務省補助金 (日本 NGO 連携無償資金協力) を得ることができました。
カンボジアでは 9 月 15 日、日本大使館で、支援対象となる「コンポントム州 母子保健改善事業 フェーズ II」(供与額 85,807 米ドル、約 719 万円) 案件の贈与契約書署名式典が開催され、黒木雅文大使と PHJ カンボジア中田好美所長が契約書に署名しました。
タイでは 11 月 2 日、在チェンマイ日本国総領事館

にて、支援対象となる「チェンマイ県子宮頸がん、乳がん早期発見・適切治療推進事業」(2010 年 11 月から 2011 年 10 月の初年度供与額 2,709,300 バーツ、約 738 万円) 案件



チェンマイ日本総領事館での式典

について、柴田和夫総領事と PHJ タイ事務所長ジラナン・モンコンデーが契約書に署名しました。

今後 3 年間、PHJ の過去の経験を活かし、子宮頸がん・乳がんによる死亡率の高いチェンマイ県 6 郡 662 村で、両がんの検診推進事業を行います。この事業は、対象地域の女性の子宮頸がん検診受診率 50% 以上、乳がんの早期発見に有効な自己触診法の習得率 70% 以上を目標としています。

巻頭言

日本で根付き始めた寄付文化



PHJ 監事
植野 道雄

みずほコーポレート銀行
元専務取締役

2008 年秋のリーマンショック以降の財政危機や景気低迷で、NPO の募金活動は厳しくなってきました。ある自治体ではオーケストラへの助成金が削られることになり、反対の署名を 1 万人集めたなどのニュースが目立つ今日このごろです。そうしたなかで外務省や多くの企業、団体、個人がピープルズ・ホープ・ジャパンが行っている東南アジアの支援に対し、資金や物品の支援を行っていることは注目すべきことだと思います。

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの 2010 年社員総会、理事会で監事に選任されました。この NPO はタイ、カンボジア、インドネシアと活動地域を絞り、母子保健、感染症予防、医療機器の維持と操作において教育活動を展開していますが、どの活動も現地のニーズを的確に把握したうえで実施されていることが非常に印象的です。綿密な調査の上で、現地に合った活動を、現地の人々や関係機関と密接に連携しながら実施し成果を上げる——だからこそ、政府・公共機関、企業、個人

が支援先をピープルズ・ホープ・ジャパンの事業に選定しているのだと納得しました。

一方で世界のため、社会のため、困っている人のために何かしてあげたいと思っている人が増えてきています。かつて私が海外勤務をしていた際、アメリカンスクールで毎年寄付を募っていたのですが、日本人の関心の薄さが大変気になりました。しかし当時と比べると、今では日本でもチャリティイベントが開かれ、一般の方々がネット上で手軽に募金ができるようになるなど、わが国にも寄付の文化が醸成されつつあるように思います。財政が厳しくなった政府や企業の支援を頼みに署名を集めるだけではなく、自分たち一人ひとりが小さな寄付を積み重ねてこそ具体的な力となることに、多くの人が気づき始めたのではないのでしょうか。

私も早速、ピープルズ・ホープ・ジャパンのチャリティカレンダーに募金しました。このカレンダーはなかなか個性的で各国のおとぎ話をテーマにした絵が描かれています。募金するだけでなく、東南アジアの文化を知る、というコンセプトだとのこと。まずは他の国に対して関心を持ち、知ろう、理解しよう、とすることが重要なのでしょうか。そのようにして、支援する側と受ける側の気持ちを一つにすることが、活動をより良いものにするのだと思います。ピープルズ・ホープ・ジャパンの益々のご発展を期待します。

マスク等の医療・健康用品をタイ・カンボジアに寄贈していただきました

PHJは日本企業数社様から寄贈して頂いたマスク、健康食品、歯ブラシや制服などをタイ、カンボジアで使わせていただくこととし、10月これらの寄贈品を船で送りました。海上輸送は商船三井株式会社様の社会貢献活動として無償で提供していただきました。

タイ

ユニ・チャーム株式会社様からN-95マスクを寄贈して頂けることになり、チェンマイ県保健局、ラジャナガリンドラ子供発達支援センター



チェンマイのRICDに到着した寄贈品

(RICD)はじめ数病院が医療従事者用に使いたいと申し入れてきました。PHJタイ事務所はHOPEパートナープログラムで提携しているRICDとともにマスクなどの寄贈品の受け入れ手続きを行いました。RICDが所属するタイ保健省、精神保健局が窓口となり、2010年10月15日ユニ・チャーム製マスク6,360個と大和小田急建設様が寄贈して下さった制服450着がRICDに到着しました。

11月11日Unicharm (Thailand) の社長、営業部長、営業課長が列席して下さり、精神保健局次長、RICD 所長、10病院の代表、PHJタイ事務所代表が出席して寄贈式典がRICDで行われ、マスクが寄贈されました。また制服は12月にRICDが支援する家庭に配布されました。ユニ・チャーム様、大和小田急建設様に心より感謝申し上げます。



11月11日の寄贈式典
(ユニ・チャーム・タイ、保健省、病院、PHJの代表が出席しました)

カンボジア

このたび、ヘルスケア製品メーカーのユニ・チャーム様よりインフルエンザの感染予防に効果の高いN95マスクを約1万6千個頂きました。カンボジアでは、イ



保健省倉庫に到着した寄贈品

ンフルエンザ対策が数年前より始っていましたが、特に2010年より、N1H1(豚インフルエンザ)の感染拡大で対策強化が呼びかけられ、政府の中央の病院や地域レベルでの取り組みが始まったところ。マスクの利用について、保健省感染対策局から「カンボジアはインフルエンザが国に侵入する危険性に常にさらされているものの、鳥インフルエンザ対策が十分ではない。ぜひ全国の公的な病院・保健センターで保健スタッフがこのマスクを使えるようにしたい」と希望がだされました。規模が拡大したため実現できるのか不安に思いつつ希望の量を伝えたと、ユニ・チャーム様からご快諾を頂きました。この場をお借りして同社のご厚意に感謝申し上げます。保健省は、今回の寄付を鳥インフルエンザ対策の国家計画へ組み込み、有効に活用すると表明しています。11月12日、ユニ・チャームのカンボジア担当者が保健省を訪問し、事務次官の出席のもと、

贈呈式が行われました。

また、大塚製薬株式会社様よりソイジョイを3千個、サンスター株式会社様より歯ブラシを2千本頂きました。これらのご支援は村での保健教育活動で活用しています。ソイジョイは、栄養に関する話をしながら、保健教育に参加する子供たち、栄養教育に参加する母親たちに配布しています。歯ブラシは、保健教育でクイズに参加した時の賞品として配布しています。どちらも、村人たちの栄養・衛生といった生活に即した保健に対する関心を高めるのに役立っています。

大勢の方々に支援を受けてカンボジアでの活動ができていることを非常にうれしく思っています。ご寄付いただいた品々は、PHJの活動で活用し、現地の人たちに非常に喜ばれています。この拙文を通して、現地からの感謝の気持ちが日本の皆様へ届けば何よりです。カンボジア事務所 中田



11月12日の寄贈式典(ユニ・チャーム代表と保健省事務次官が握手)



保健教育に参加した子供たちがソイジョイを受け取りました

インドネシア—国連ミレニアム開発目標達成のために、挑戦はまだ続く

2004年から「母子健康・栄養改善」を主目的とした「地域保健医療システム強化事業」をインドネシア・バンタン州セララ県で展開しています。事業開始当初は、村に助産師はおらず、字が読めない伝統的呪い師・産婆による自宅出産が70%以上でした。貧しい村人の家の床は「土間」でお産も土の上。出血・感染症による妊婦・新生児の死亡が絶えない地域でした。PHJは県保健局へ強く働きかけ、村に定住してくれる助産師を増やし、保健教育活動を通して「助産師による出産・医療施設での出産」を啓蒙してきました。又、診療所に24時間対応の助産科を設置、村に保健センター建設支援等を行っています。この結果2009年度は妊婦死亡率ゼロを達成しました。

しかしこれらの努力も虚しく、2010年10月に「妊婦死亡ケース」が発生しました。妊婦の年齢は推定で40歳（出生記録なし）、10回目の妊娠、極度の貧困層でした。陣痛が始まり、家族が「伝統的産婆」を呼びました。この産婆は、PHJの活動方針「産婆一人での出産介助は禁止」を守り、助産師を呼びに行こうとしましたが、家族が「助産師を呼ぶな！」



妊婦が住んでいた村の様子

と脅迫、監禁した状態で出産を介助、2卵生双生児が誕生しました。妊婦の出血が続き、助産師が呼ばれ、27キロ離れた県立病院へ搬送



村に支援して作った保健センターの助産室

することに。自治地区にある唯一の救急車は故障の為、公共の乗合いワゴンでガタガタ道を2時間以上かけての搬送、出産から14時間後に亡くなりました。

「インドネシアでは稀な40歳以上での出産・脅迫・監禁」と特殊要因があるとはいえ、PHJ・現地での活動チームにとり非常にショックな出来事で、「なぜ清潔な保健センターでのお産を拒むのか？」「なぜ助産師を避けたがるのか？」様々疑問が残り、「死亡ケースゼロ」の難しさを認識させられました。

国連が「ミレニアム開発目標」を掲げ旗振りをしています。提唱しなければ問題解決の糸口は見つかりませんが、この目標達成の為の現場での取り組みは、容易ではありません。グローバルコンパクトの支持を表明する企業・個人のご指導のもと、これからも挑んでいきたいと思っています。

インドネシア事務所所長 伊藤

五月女理事

ラ コ ム

Vol.1 決して故郷を振り返らずに

戦後の荒廃した日本で苦しむ多くの人々を救った国際NGOのひとつLARA、その支援活動が円滑に進むよう浅野七之助（日系人）、湯浅八郎、阿部志郎、堀内謙介、など多くの日本の有識者・宗教家の方々が尽力された。他方、支援する側のアメリカ・カナダ人の支援グループも同様に尽力して下さったが、その中にカナダ人プロテスタント宣教師のアーネスト・バット博士がおられた。博士は戦前に日本で慈善事業に携わっておられ日本語も堪能であったが、この度の来日は戦後の苦境に苦しむ人々、特に子供たちを救済するためであった。博士がカナダを発つ際、父上は『アーネストよ、日本に行ったからには日本人達から愛され信頼される人になっておくれ、決して故郷カナダを振り返らないでな。』と激励された。博士は文字通り寝食を忘れて支援活動に携われた。そんなある日、一人の少年がこう云った。“アメリカ人やカナダ人は偉い人なのに、僕たち日本人は駄目な人間なのですね。”これを聞いて博士は涙が止まらなかったという。自分たちが良かれと思い善意で行っていることが、相手の人間の尊厳を失わせ卑屈

にしてしまったのかと、自分の配慮のなさを悔やんだ。博士は、“今は助けを受けていても、これから一所懸命頑張るって豊かになり、今度は君たちが、他の困っている国々の人達を助けるようになりなさい。”と諭したという。



横浜市新埤頭にあるララ物資記念碑

にしてしまったのかと、自分の配慮のなさを悔やんだ。博士は、“今は助けを受けていても、これから一所懸命頑張るって豊かになり、今度は君たちが、他の困っている国々の人達を助けるようになりなさい。”と諭したという。

LARA物資による日本支援活動が終了する3週間前、日本の復興を見届けたバット博士は6年間に亘る心労と過労による心臓病悪化のため病床につき、ついに1952年3月5日、多くの人々に惜しまれて昇天された。享年60。文字通り故郷を振り返らずに、日本の為に尽くされた方であった。

参考：記念碑に刻まれた香淳皇后御歌

あたたかき とつ国人の心つくし ゆめな
わすれそ 時はへぬとも

五月女光弘（さおとめみつひろ）…外務省初代NGO担当大使、元特命全権大使、現在PHJ理事他

*今後毎号五月女理事コラムを掲載いたします。

会員のひろば

「個人会員になりましょう」

北島 弘

法人会員（東京電機産業株式会社）としては10年来のお付き合いですが、2010年4月よりPHJの個人会員に加入をさせて頂きました。従来社会貢献といっても特別な活動をした経験もなく過ごしていましたがアフガニスタンから来日している20年来の友人（写真右端：アフガニスタン駐日臨時大使バシルさん）の関係で、ドキュメント映画『子供の情景』を観ました。ここでは子供達にとって“1冊のノート”がいかに大切かがわかります。またわが国がいかに物資に恵まれているかを痛感いたします。世界で起きているいろいろなことを見聞すると“個人として何が出来るのだろ”と常々自問をしていました。20年前に医薬業界にいた経験もありPHJが行なっている**保健医療自立支援**はまさにBOP (base of the pyramid)を支える必須要件なのだと思います。タイでカンボジアでインドネシア等各国の現地活動

する方々、多くのボランティアの方々が真摯な活動を続けられ、事務局との綿密な連携プレーが出来ているのを拝見して自分としては『どうやって支援をしたら良いか』考えて

いましたが、まず身近なことから始めようと思い立ち個人加入をさせて頂いた次第です。一会員の出来ることは限られていますが続続をすることをモットーとして微力ながらPHJ会員に加入させて頂き、『自分の出来ること』を探して行きたいと思っています。NPO活動、ボランティア活動を躊躇されている方でもし本文が目にとまりましたら、「スタートとして」PHJ個人会員に加入されてはいかがでしょうか。



(筆者：写真左端、2009年アフガニスタン建国祝)

グローバルフェスタ2010JAPAN

PHJは2010年10月2日、3日東京日比谷公園で開催されたグローバルフェスタに出展。第20回のフェスタのテーマはMDGs。PHJは「アジアのおはなしカレンダー」のために活動地域と武蔵野市の子供たちが描いてくれた絵の展示とMDGs目標4、5、6の活動を展示しました。MDGsワークショップではカンボジアでの安全なお産支援をテーマにしました。2日間で250名の方がPHJブースを訪れてくれました。



PHJのブース

むさしの国際交流まつり

PHJは2010年11月21日に東京武蔵境のスイングホールで開催されたおまつりに参加し、タイ、カンボジア、インドネシアと武蔵野市の子供たちがおとぎ話をテーマに描いた絵を使った「アジアのおはなしカレンダー」の展示、各国語の挨拶のシールを集めるラリーではタイ語の挨拶を担当しました。またお絵かき教室では、7人の子供たちにタイのお話を読み聞かせて絵を描いてもらいました。



タイのお話の絵を描く子供たち

会員も出席されて第41回運営委員会を開催しました

PHJは3ヶ月ごとに各国での活動を報告し、ご提案やご意見を求める運営委員会を開催しています。第41回は11月18日(木)日本GE株式会社様の会議室をお借りして、運営委員に加え、個人、法人会員15名がオブザーバーとして出席されました。カンボア、インドネシアの所長、タイ担当のPHJスタッフの報告には、質問やコメントが沢山出され、苦労話や嬉しいことも発見できる現地の様子がわかりました。第42回運営委員会は2月17日(木)5:00-7:30、日本GE社様の会議室をお借りして開催いたします。今回もオブザーバーの出席を募集しております。



中国四川大地震支援最終報告

2008年5月中国四川省で発生した大地震被害に対して皆様から募金1,739,848円が寄せられました。PHJはこれを友好病院である上海児童医療センターに委託し、2年計画で成都児童病院の若手医師、看護師の教育(特にメンタルケア)に使わせて頂きました。この紙面でも中間報告をさせて頂いてきましたが、このたび現地から、上海で教育を受けた4人の医療スタッフを中心に専門部署を設置したことなど確実な成果をあげているとの最終報告を受けました。改めて皆様にご報告と御礼を申し上げます。